

消費税率の引上げに伴う価格設定について（ガイドライン）

平成 30 年 11 月 28 日
内 閣 官 房
公 正 取 引 委 員 会
消 費 者 庁
財 務 省
経 済 産 業 省
中 小 企 業 庁

1. 価格設定に関する考え方

- 我が国においては、消費税が 1989 年に導入されて以降、導入時及び税率引上げ時に、一律一斉に価格が引き上げられるものとの認識が広く定着しています。
- これに対し、1960 年代から 1970 年代前半に付加価値税が導入され、税率引上げの経験を積み重ねてきている欧州諸国では、税率引上げに当たり、どのようなタイミングでどのように価格を設定するかは、事業者がそれぞれ自由に判断しています。このため、税率引上げの日に一律一斉に税込価格の引上げが行われることはなく、税率引上げ前後に大きな駆け込み需要・反動減も発生していません。
- たしかに、消費税は、事業者ではなく、消費者が最終的には負担することが予定されているため、消費税率引上げ後に小売事業者が値引きを行う場合、消費税転嫁対策特別措置法により、「消費税はいただいていません」「消費税還元セール」など、消費税と直接関連した形で宣伝・広告を行うことは禁止されていますが、これは事業者の価格設定のタイミングや値引きセールなどの宣伝・広告自体を規制するものではありません。例えば、「10 月 1 日以降〇%値下げ」「10 月 1 日以降〇%ポイント付与」などと表示することは問題ありません。
- また、今回は、中小・小規模小売事業者に対して、来年 10 月の消費税引上げ後の一定期間に限り、ポイント還元といった新たな手法などによる支援などを行う予定です。これにより、中小・小

規模小売事業者は、消費税率引上げ前後に需要に応じて柔軟に価格設定できる幅が広がるようになります。

- 大企業においても、消費税率引上げ後、自らの経営資源を活用して値引きなど自由に価格設定を行うことに何ら制約はありません。

2. 適正な転嫁の確保

- このように消費税率引上げ後、小売事業者が自らの経営判断により値引きを行うことに法令上の制約はありませんが、事業者間の取引については、当該小売事業者が製品・サービスを納入する下請事業者等がしわ寄せを受け、適正な価格転嫁ができず、増税分を負担させられるような事態があってはなりません。
- 消費税転嫁対策特別措置法は、小売事業者や下流の事業者が、下請事業者や上流の事業者に対し、消費税増税分を減額するよう求めたり、利益提供を求めたりすることなどを禁止しています。来年10月の消費税率引上げに際しても、下請事業者等に対するこうした不当な行為がなされないよう、引き続き、転嫁Gメンによる監視や関係機関による周知を厳格に行っていきます。

3. その他

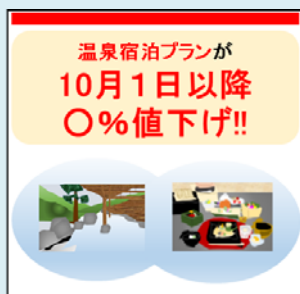
- 消費税率引上げ後、消費の平準化を図るために一定の支援措置を講じる予定としており、事実と反して、消費税率引上げ前に、「今だけお得」といった形で消費者に誤認を与え駆け込み購入を煽る行為は、景品表示法に違反する可能性があります。
- 消費税転嫁対策特別措置法は、税込価格の表示（総額表示）を義務化している消費税法の特例として、「事業者が表示する価格が税込価格と誤認されないための措置を講じているときは、税抜価格を表示できる」と規定しており、これについて特に変更はありません。
- また、従来、消費税率の引上げを理由として、それ以上の値上げを行うことは「便乗値上げ」として抑制を求めてきましたが、これは消費税率引上げ前に需要に応じて値上げを行うなど経営判断に基づく自由な価格設定を行うことを何ら妨げるものではありません。

価格設定に関する考え方（ガイドライン1．関係）

宣伝・広告に関する規制

○ 禁止されない表示

「10月1日以降〇%値下げ」などの表示は問題ない



✕ 禁止される表示

「消費税還元セール」など、消費税と直接関連した宣伝・広告は禁止



適正な転嫁の確保（ガイドライン2．関係）

転嫁Gメンによる監視
関係機関による周知

（転嫁拒否する側）
小売事業者
下流の事業者

✕ 転嫁拒否等の行為

- 消費税増税分の減額要請
- 利益提供の要請 など

（転嫁拒否される側）
下請事業者
上流の事業者

その他（ガイドライン3．関係：税抜価格として表示できる例）

税込価格と誤認されないための措置の具体例（総額表示義務の特例関係）

① 個々の値札等において税抜価格であることを明示する例

〇〇〇円(税抜価格)

〇〇〇円(税別)

〇〇〇円(本体価格)

〇〇〇円+税

〇〇〇円+消費税

② 店内における掲示、チラシ等における表示により一括して税抜価格であることを明示する例

個々の値札等又は個別の商品価格の部分には、「〇〇〇円」と税抜価格のみを表示し、別途、消費者が商品等を選択する際に目につきやすい場所に、明瞭に以下のような表示を行うことが考えられる。

当店(本チラシ)の価格は全て税抜表示となっています。

「消費税率の引上げに伴う価格設定について(ガイドライン)」 (2018年11月)の主な内容

ガイドラインの6つのポイント

- ✓ 消費税と直接関連しない宣伝・広告は規制されません
- ✓ 中小・小規模小売事業者の柔軟な価格設定を支援します
- ✓ 転嫁Gメンによる転嫁拒否の監視等は引き続き厳格に実施します
- ✓ 事実に反して「今だけお得」等の表示を行うことは法律違反の可能性
- ✓ 誤認防止措置を講じていれば税抜価格での表示が引き続き可能
- ✓ 合理的な理由があれば便乗値上げには当たりません

1 消費税と直接関連しない宣伝・広告は規制されません

○ 禁止されない表示

「10月1日以降〇%値下げ」などの表示は問題ない



✕ 禁止される表示

「消費税還元セール」など、
消費税と直接関連した宣伝・広告は禁止



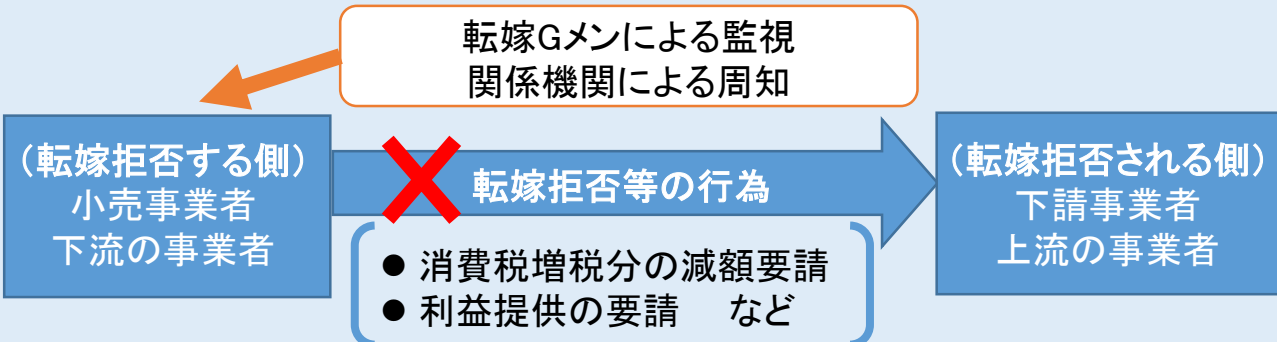
2 中小・小規模小売事業者の柔軟な価格設定を支援します

- ・ 中小・小規模小売事業者に対して、
- ・ 来年10月の消費税引上げ後の一定期間に限り、
ポイント還元といった新たな手法
などによる支援などを行う予定



消費税率引上げ前後に
需要に応じて柔軟に
価格設定できる幅が
広がるように

3 転嫁Gメンによる転嫁拒否の監視等は引き続き厳格に実施します



4 事実と反して「今だけお得」等の表示を行うことは法律違反の可能性があります



- ・ 事実と反して、
- ・ 消費税率引上げ前に、
- ・ 「今だけお得」といった形で、
- ・ 消費者に誤認を与え駆け込み購入を煽る行為は、

景品表示法に違反する可能性

5 誤認防止措置を講じていれば税抜価格での表示が引き続き可能です

税込価格と誤認されないための措置の具体例（総額表示義務の特例関係）

① 個々の値札等において税抜価格であることを明示する例

〇〇〇円（税抜価格）

〇〇〇円（税別）

〇〇〇円（本体価格）

〇〇〇円＋税

〇〇〇円＋消費税

② 店内における掲示、チラシ等における表示により一括して税抜価格であることを明示する例

個々の値札等又は個別の商品価格の部分には、「〇〇〇円」と税抜価格のみを表示し、別途、消費者が商品等を選択する際に目につきやすい場所に、明瞭に以下のような表示を行うことが考えられる。

当店（本チラシ）の価格は全て税抜表示となっています。

6 合理的な理由があれば便乗値上げには当たりません

便乗値上げに当たらない具体例

- ① 消費税率引上げに近接したタイミングで生じた別の要因（例：原材料価格や人件費の変動等）への対応として値段を変更する。
- ② 消費税率引上げ前の需要の高まり（駆け込み需要）に対応して、値上げを行う。

ガイドラインは、以下の政府広報オンラインからご覧いただけます

https://www.gov-online.go.jp/tokusyu/keigen_zeiritsu/other/anteiteki.html#kensyo

【ガイドラインに関するお問い合わせ先】

【総論・広報】

内閣官房消費税価格転嫁等対策推進室 03-3539-2907

【宣伝・広告（「消費税還元セール」、「今だけお得」等）】

消費者庁表示対策課 03-3507-8800（代）

【ポイント還元】

経済産業省商務・サービスグループ参事官室 03-3501-1511（代）

【適正な転嫁の確保】

公正取引委員会消費税転嫁対策調査室 03-3581-1891
中小企業庁取引課消費税転嫁対策室 03-3501-1511（代）

【総額表示】

財務省主税局税制第二課 03-3581-4111（代）

【便乗値上げ】

消費者庁消費者調査課 03-3507-9196